

# 2020（令和2）年度事業報告書

（2020（令和2）年4月1日～2021（令和3）年3月31日）

特定非営利活動法人越谷らるご

## はじめに

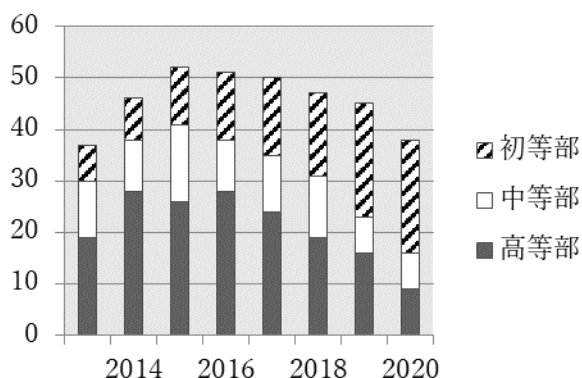
定款に記載された目的および事業の内容を達成するため、事業計画に沿って下記の事業をコロナ禍において、可能な限り実施した。

## 1 事業の成果

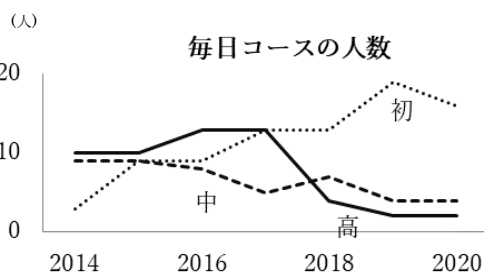
### 1) フリースクール事業

フリースクール「りんごの木」は開所曜日を月～金曜日に変更し、年間を通して40名程度（下記のような内訳）で実施した。

(ア) 年度末の在籍者



上記のグラフのように高等部メンバーの減少傾向はこれまでと変わらず、全体としては初等部の割合が高くなっている。



2020年度はコロナの影響で、2か月ほど休業した（その間、オンラインのりんごの木を数回実施。）その後も9月上旬まで午後のみ開所としたが、夏季に例年週2日開所していたのを週に4

日開ける等、少しでも居場所としての役割を果たせるように努めた。

活動全体では、ひるめし食堂や旅行などのイベントは実施できなかったが、体育館や公園遊びなど、感染リスクの低い活動は実施できた。

コロナ禍で不安を感じ来づらいメンバーもいたが、助成金を活用する等できるだけ感染対策を行い、開所し、幸い、コロナ感染例もなく、1年間の活動を終えることができた。

### 講座・学習

通信制高校や大学在籍者へのレポート作成等の学習支援、進学に関する情報提供や相談等を個別に実施した。また子ども通信も発行した。

### イベント

フリースクールフェスティバル、民間企業との交流会、合宿、お泊まり会等のイベントはコロナウイルスの影響で中止となったが、年度末には昨年度できなかったお別れ会も併せて2年分のお別れ会を開催した。日本フリースクール大会にはオンラインでスタッフが参加した。

『りんごの木 30周年記念誌』は予定通り約1,000部発行し、関係者、希望者・関係団体、行政等に発送した。



### 保護者との関わり

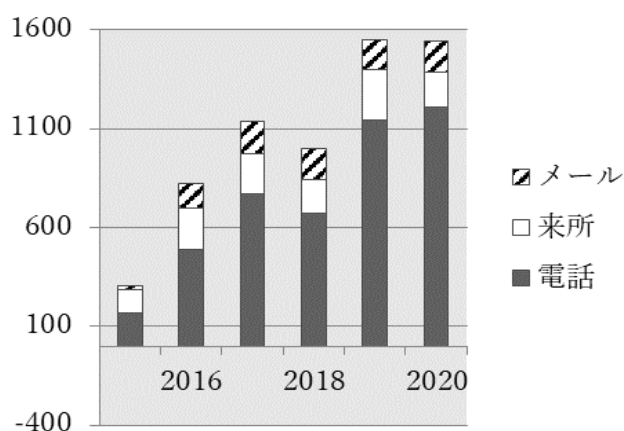
保護者会を1回と保護者面談を随時実施した。また保護者有志によるお茶会開催は2回の開催であったため、保護者間の交流が難しかった。

## 2) 子どもとの関係や対人関係に悩む人の相談に応じ、互助活動を支援する事業

### 「埼玉県ひきこもり相談サポートセンター」

相談活動として、埼玉県の委託事業「埼玉県ひきこもり相談サポートセンター」でひきこもりに関わる相談を受けた。相談件数は下記のとおりである。(うち、新規の相談は2020年度300件、2019年度368件、2018年度287件、2017年度305件)

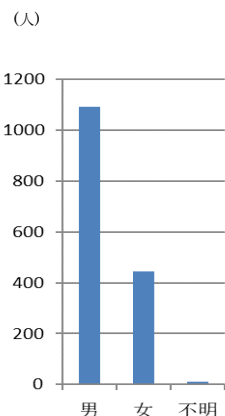
(件) 1 相談件数 (のべ人数)



※2015年は11月からの5カ月間の開所。

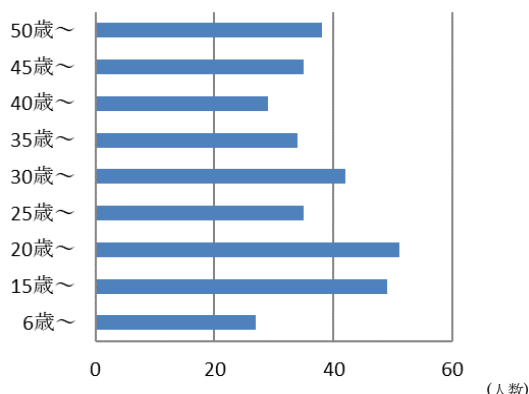
2020年度はひきこもりが社会的に注目を集めることが少なかった。ひきこもりが社会問題化するような大きな出来事がなかったとはいえ、2019年が事件報道等の影響で大幅に増えた件数は、そのまま推移した。相談の傾向は以下であった。

(人) 2 ご本人の性別 (のべ人数)



感染防止の観点から来所相談を少なめにしたため、グラフ1のように電話相談の割合が増えた。が、全体の傾向としては従来と大きな変化はなく、本人は男性が多い。

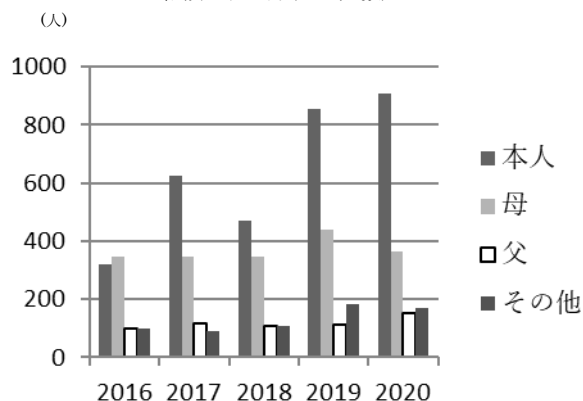
(人) 3 ご本人の年齢 (実人数)



相談が多いのは、引きこもって5年未満と、まだあまり時間が経過していないケースで、グラフ3から分かるように相談されるご本人の世代の偏りはあまりなく、幅広い世代から相談があった。

グラフ4のように相談された方はご本人からが最も多い傾向は変わらないが、2020年度はコロナで父親の在宅率が多いせいか、母親からの相談が減り、父親からの相談が微増した。

(人) 4 相談された方(のべ人数)



そして、なかなか本人も家族もどうすればいいのか分からない中で、6割近くの方は、具体的な情報や提案よりも、ただ話を聞いてもらうことを望んでいる。当センターとしては、相談者の声に耳をしっかりと傾け、少しでもほっとしたり、肩の荷が軽くなるような思いに至れるように努めてきた。

2020年度は様々な関係機関からスタッフを招き生活保護やサポステ等についての内部研修を実施した。

## 親の会

親の会の開催を心待ちにしている声も多くあったが、コロナ感染のリスクからなかなか開催することができなかった。開催時はこれまでと同様の参加があった。

## コル〜発達障害とともに生きる会

発達障害周辺の方（家族やご本人）を対象に、交流や情報交換の場として、年4回を計画していたが、2回開催した。

## ほっとりんご（20歳以上の人の居場所）

感染リスクの低い活動を中心に、可能な範囲で実施した。参加数は例年の半分くらいにとどまったが、特にコロナで気持ちも不安定になる人が多い中で開催した意義は大きく、居場所の大切さを再認識することができた。

また女性が安心して気軽に参加できるための「女子会」を年2回実施した。



2020/12/3 アートの講座の様子

## 3) 生涯学習にかかわる事業

### 「わくわく体験プロジェクト」

—越谷市と地域とNPOの協働事業—

地域やNPO、行政が協働して、保護者向けに不登校の体験談を聞く会等を3回計画し2回実施した。

## 4) 人権擁護の推進と福祉の増進にかかわる事業(自立援助ホーム)

2020年度は、ホーム長が変わり、新たなスタートを切ったが、コロナや県内に自立援助ホームが6ホーム新設されたことが影響したためか、ゆらいへの入居相談が少なく、入居者が居ない時期もあった。

また研修や会議、外部との関わりの機会も持ちづらく、他ホーム等との交流等が減ったこと、職員間の交流の機会を持てなかったことは残念だった。運営委員会はコロナ禍により6月は書面報告としたが、その後、3回の運営委員会は開催した。

一方、退居者については、コロナ禍での状況確認や助成金を利用しての物資の支援のために電話やメール等で積極的に連絡を取り、来訪や訪問なども含めて年間で355件のアフターケアを実施した。特に困難を抱える退居者へは新たに他団体と連携し実施した。

## 5) 活動のなかで得られた子どもの教育と生涯学習についての意見を広めるための事業(広報事業)

「越谷らるご通信」は、スタッフを中心にコロナの動向を見つつ月1回発行し、活動の案内や報告等を行った。

また活動報告や告知についてホームページやフェイスブック、メールマガジンなどインターネットを通しての発信も継続した。またパンフレットの内容を更新、増刷した。越谷らるご法人化20周年記念誌の発行は次年度に持ち越された。

## 外部委員参加(書面開催含む)

- ・埼玉県子ども若者支援地域協議会
- ・越谷市青少年問題協議会
- ・越谷市自殺対策協議会
- ・埼玉県氷河期世代活躍支援プラットフォーム
- ・「就労を通じて若者と社会をつなぐ会」
- ・東京都学校・フリースクール等協議会

## 講師活動

- ・越谷市保健支援センター家族会
- ・マロウドの会

## 2 事業の実施にかかわる事項

### 特定非営利活動にかかわる事業

事業名	事業内容	実施場所	支出額
1) フリースクール事業	コロナで休所した4、5月以外、月～金曜日 10:00～17:00 に子どもの居場所、育ちの場を開き、活動の支援や相談、見学・体験入会などを行った。またりんごの木30周年記念誌を1000部作成した。(越谷市しらこぼと助成事業) 2020年度は44名でスタートし、6名が新入会し、13名が年度中に退会した。(2021年3月末の在籍:38名。)	本法人の事業所他	13,768 (千円) 以下同様
2) 子どもとの関係や対人関係に悩む人の相談に応じ、互助活動を支援する事業	<b>親の会</b> 年11回計画していたが、コロナにより5回のみ実施した(のべ参加者数:86名)。	本法人の事業所	10,512
	<b>埼玉県ひきこもり相談サポートセンター(埼玉県委託事業)</b> 月・水～土曜日 10:00～18:00 にひきこもり等に関する相談を電話・来所・メールにて受けた(のべ相談者数:1546名)。	本法人の事業所他	
	<b>コル～発達障害とともに生きる会</b> 年4回計画し、2回、互助的な会を開催した(のべ参加者数:23名)。	本法人の事業所	
	<b>ほっとりんご(埼玉県ひきこもり集いの場運営事業)</b> 20歳以上の人の居場所として、女子会2回を含む18回開催した(26回計画)のべ参加者数:89名。うち芹沢氏講演会30名)	本法人の事業所	
3) 生涯学習にかかわる事業	<b>行政(越谷市)と地域との協働事業「わくわく体験プロジェクト」</b> 不登校の体験談を聞く会など、保護者向けの会を2回実施し、年度末に報告書を作成した(のべ参加者数:42名、2019…42名、2018…45名 2017…46名)。	中央市民会館	0
4) 人権擁護の推進と福祉の増進に関わる事業	<b>自立援助ホームの活動</b> 家庭での生活に困難を抱える若者の自立支援を行った。今年度は1名が新規入居者となり、4名の一時保護を行った。退居者支援として、退居者の来訪、相談、訪問など(355件)を行った。	本法人の事業所	24,261
5) 活動の中で得られた子どもの教育と生涯学習についての意見を広めるための事業	<b>『越谷らご通信』の発行</b> 毎月、会員及び関心をもつ方を対象に、11回、メールによる発信を含め、計4,000部ほどを発行し、活動で得られた知見を社会に発信した。	本法人の事業所	574,568
	<b>インターネットによる発信</b> 不特定多数の方を対象に、毎月1回メールマガジンの発行とホームページの刷新と随時の更新、フェイスブックによる発信を随時行った。	本法人の事業所	
	<b>その他</b> ・行政が主催する6つの協議会にスタッフが委員として参加した。(書面開催含む) ・保健所等が主催する2カ所で学習会・講演会などの講師活動を行った。 ・パンフレットを一部修正し、1,000部増刷した。	本法人の事業所 他依頼先	
管理部門	法人事務、運営管理等	本法人事業所	2,316

## 3 運営管理に関する事項

- ・2021年3月末現在、正会員67名(73名)、賛助会員46名(41名)であった。(括弧内は2020年3月)
- ・情報管理が徹底されるよう、毎月事務局会議で個人情報の管理状況を確認した。
- ・広く支援を受けるための取り組みとして、「フリースクールりんごの木子どもサポート基金(以下、サポート基金)」「若者自立支援基金」、「一般寄付」の3種の寄付メニューを継続した。サポート基金については、オンラインでの寄付サイト Give One を活用し、「高山弘子基金」「はる基金」など幅広い方からの支援をいただき、助成金として受け取る事ができた。また、コロナ禍の助成金として、「埼玉県 NPO 活動サポート事業」「生活クラブ福祉活動緊急助成 2020」「匿名基金 A」を受けた。年度当初の緊急事態宣言に際して、フリースクール事業を休業および短縮した際は、雇用調整助成金を申請し、職員2名分の助成金を受給した。
- ・新型コロナウイルス対応マニュアルを事業ごとに策定し、非常時への備えをした。
- ・当該年度の譲渡資産、資産の貸付、役務の提供に関しては該当なし。
- ・給与を得た職員の総数 11名。左記職員に対する給与総額 30,343,349円